

かみいち総合病院改革プラン評価表(経営効率化指標)

1 財務に係る数値目標

主な数値目標	令和2年度	令和3年度				令和4年度	状況報告	評価委員の 評価・指摘事項
	実績	計画値	実績値	自己評価	評価委員	計画値		
経常収支比率(%)	102.9	99.3	110.6	A		99.3	【収支改善に係るもの】 ・経常収支比率については、一般会計負担金及び新型コロナウイルス感染症病床確保事業補助金等により、計画値を上回った。	
医業収支比率(%)	86.4	88.5	94.7	A		88.5	入院外来収益が前年比で改善したこと、新型コロナワクチン接種による「その他医業収益」分が新たに計上されたこと、及び減価償却費が大きく減となったことにより計画値、前年実績ともに上回る形となった。	
不良債務比率(%)	-7.9	0	0	A		0	・マイナスは不良債務がないことを示している。	
医業収益対診療材料比(%)	6.1	5.5	6.4	B		5.5	【経費削減に係るもの】 ・入院及び外来収益の上昇に伴い、材料費も増加し、計画値を上回った。	
医業収益対薬剤比(%)	8.6	9.7	8.4	A		9.7		
医業収益対委託比(%)	13.1	13.2	12.8	A		13.2	・委託費については、新型コロナウイルス感染症に関する検査により増加したが、全体では前年度実績を下回る結果に抑えることができた。	
医業収益対職員給与比(%)	60.5	60.8	53.4	A		60.8		
後発医薬品使用割合(%)	90.4	85.0	88.9	A		85.0	・後発医薬品への切り替えは目標値を達成しているので今後、維持が重要である。	
1日平均患者数(入院)(人)	132.4	142.9	140.5	B		142.9	【収入確保に係るもの】 ・感染患者の空床確保体制を取ながらも、退院計画を円滑に進めたことで新たな患者の受け入れ枠が拡大したことによるもの	
1日平均患者数(外来)(人)	381	401.7	412.5	A		401.7	・受診控え傾向の縮小と行動制限緩和に伴い感染リスクが増加したことによる発熱外来受診患者増によるもの	
入院患者1人1日 当たり診療収入 (円)	36,864	35,321	38,322	A		35,321	・地域包括ケア病床の病床利用率が計画値を上回り、新しい患者の受け入れが可能となったことによるもの	
外来患者1人1日 当たり診療収入 (円)	12,246	12,119	12,713	A		12,119	・化学療法、白内障手術等については上限に近い運用となっており、現状では単価も12千円台が上限ではないかと思われる。	
病床利用率(一般)(%)	74.3	76.5	71.2	B		76.5	・新型コロナウイルス感染症対策として病床を確保したことにより、計画値を達成することができなかった。	
病床利用率(回復期)(%)	60.2	68.8	71.4	A		68.8		
病床利用率(地ケア)(%)	—	75.4	80.4	A		75.4	令和2年11月より病棟の稼働開始	
病床利用率(精神)(%)	57.1	60.2	59.2	B		60.2	・平均在院日数が縮小傾向にあるが、新入院患者が少ないことによる。	
常勤医師数	24	24.0	25	A		24.0	【経営の安定に係るもの】	
医業未収金残高 (千円) 3月末時点	32,012	30,000	38,771	B		30,000	・医業未収金は、計画を達成できなかった。	
現金保有残高(千円)	418,778	284,344	889,736	A		284,344	現金保有残高については、純利益が黒字に転じたことにより計画値を達成することができた。	

2 医療機能に係る数値目標

主な数値目標	令和2年度	令和3年度				令和4年度	状況報告	評価委員の 評価・指摘事項
	実績	計画値	実績値	自己評価	評価委員	計画値		
救急車受入件数	507	500	552	A		500	【医療機能・医療品質に係るもの】 ・手術件数については、前年度比23.7%増であった。診療科別では、外科18件増の124件、眼科146件増の396件、整形外科36件増の255件であったが、血管外科で23件、産婦人科で9件それぞれ減少した。 ・紹介率、逆紹介率ともに医療機関の機能分化の在り方の指標となることから地域連携室を中心として各医療機関との連携を強化していく。	
手術件数(人)	706	700	873	A		700		
紹介率(%)	30.0	29.0	27.1	B		29.0		
逆紹介率(%)	20.6	20.0	18.1	B		20.0		
在宅訪問診療件数	974	1,000	968	B		1,000	【安心な老後を支える病院】 ・今回は、前年実績を下回る結果となったが、高齢者が安心して暮らせる地域づくりとして在宅医療の需要は今後も増え続けると言える。また、入院治療から在宅医療へのスムーズな移行を実現させるために回復期病棟の役割は大きい。	
在宅復帰率(%) (回復期)	89.7	80	92	A		80		
分娩件数	110	120	128	A		120	【命産んで育む病院】 ・産科の分娩件数については、前年度に対して18件の増であった。出産可能人口減少の中で分娩件数を増やすため、町と連携した施策が必要である。	
外来患者満足度%	85.7	85.0	85.6	A		85.0	【その他】 ・年1回の満足度調査で評価の低い項目に対して見直しを行い、満足度を高める方策を図る。 ・相談件数について、前年度を上回り、計画値を達成している。 ・ナイトスクールについては、町民の医療・健康に対する意識向上、病院スタッフと地域住民の意見交換等を行うためにも定期的に開催してきたが、新型コロナウイルス感染症対策により開催できなかった。この状況が変われば再開する予定。 ・認定看護師の充実に向けて、認定を活かせる体制づくりを図る。	
入院患者満足度%	92.3	85.0	91.2	A		85.0		
患者窓口相談件数	2,324	1,400	3,500	A		1,400		
ナイトスクール実施件数	0	4	0	—		4		
認定看護師数(人)	11	12	11	B		12		

(注) 達成状況欄は、A: 目標以上 B: 一定の実績(8割以上) C: 実績不足 により評価票1の数値を自己評価した